

京都市文化観光資源保護財団

# 会報

No. 27



## もくじ

シリーズまもる② 文化財の防犯

古い寺に住んで(4)

「文化財紹介」二条陣屋

会員だより

京都の文化的伝統とこれからの町づくり(2)

京都府警察本部

防犯課長 佐々木善市 P 3

鞍馬寺貫主 信楽香仁 P 5

二条陣屋 小川平太郎 P 6

代表者 P 7

京都大学教授 西川幸治 P 11

古代政治と仏教－1－

作家 松本清張 P 13

保護財団の活動

会報題字 理事長佐伯 勇

会報

No. 27 55. 10. 1

編集・発行

財団 京都市文化観光資源保護財団

法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606 電話 075-752-0235(代)

# 募金にご協力いただき ありがとうございました

寄附者芳名録(敬称略) 55.3~55.7.31

## 一法人及び団体の部

### 〔特別会員〕

※裏千家	今 日庵	〈400万円〉
佐川急便	株式会社	〈350万円〉
清和商事	株式会社	〈350万円〉
近畿急便	株式会社	〈200万円〉
佐川印刷	株式会社	〈100万円〉
株式会社 淡交社		〈100万円〉
株式会社 大倉工房		〈100万円〉
京都府民信用組合		〈100万円〉

### 〔普通会員〕

※厚木市立厚木中学校三年生一同  
〈10万7千7百7拾3円〉

### 〔賛助員〕

※厚木市立睦合中学校生徒会  
〈9万3千百拾2円〉  
※有限会社 山中ケッテル製作所  
〈8万5千円〉  
※厚木市立 林中学校  
〈3万4千6百2拾1円〉

## 一社寺の部

### 〔特別会員〕

※金地院 〈125万円〉

### 〔普通会員〕

※吉田神社 〈80万円〉  
※大報恩寺 〈10万円〉

## 一個人の部

### 〔特別会員〕

※岩井栄太郎 〈200万円〉  
杉島勇 〈100万円〉  
納屋嘉治 〈100万円〉  
※狩郷修 〈32万1千円〉  
※高橋政幸 〈17万円〉  
※竹村實 〈12万円〉  
※大槻敏夫 〈11万円〉

### 〔普通会員〕

※山崎章 〈8万円〉  
※山崎きぬ 〈7万円〉  
※丸山末棹 〈6万5千5百円〉

※奈良行博 〈5万円〉  
※堀池嘉一 〈4万8千円〉  
※高橋一男 〈3万6千円〉  
※児玉誠代 〈3万6千円〉  
※原山喜陶苑 〈3万5千円〉  
※村田陶苑 〈3万5千円〉  
※岡本保止 〈3万4千9百9拾9円〉  
※石田豊之助 〈3万円〉  
※天野和夫 〈3万円〉  
※加藤雅一 〈2万8千円〉  
※上田長雄 〈2万7千円〉  
※松島浩子 〈2万7千円〉  
※鬼藤伊之助 〈2万1千円〉  
※宮城龍曉 〈2万1千円〉  
※吉田佳世 〈2万円〉  
※樹本治 〈2万円〉

### 〔賛助員〕

※弘津友三郎 〈1万5千円〉  
※田村芳子 〈1万5千円〉  
※松本善次郎 〈1万4千円〉  
※吉本明代 〈1万1千8百円〉  
※前田ふみ 〈1万円〉  
小田嶋弘 〈1万円〉  
※西原寿子 〈9千円〉  
※高広康子 〈6千円〉  
※久保馨子 〈6千円〉  
※吉井明子 〈6千円〉  
※堀菊枝子 〈5千5百円〉  
※吉田澄子 〈5千百円〉  
※恒川久 〈5千円〉  
※盛田准 〈5千円〉  
匿 〈5千円〉  
※安田耕三 〈4千円〉  
西田健一 〈3千円〉  
※水野昭彦 〈3千円〉  
※平野和彦 〈3千円〉  
※村北優明 〈2千5百円〉  
角谷嵩 〈2千円〉  
中村道雄 〈2千円〉  
※山田足立 〈2千円〉  
足立久 〈2千円〉  
※宇美茂 〈1千百9円〉  
絹田実 〈1千円〉  
浅野すえ子 〈1千円〉  
利倉弘子 〈1千円〉  
富田壮一 〈1千円〉  
森田アキ子 〈1千円〉  
五十嵐豊子 〈1千円〉  
山本洋三 〈1千円〉  
山根仁司 〈1千円〉  
大島聖二 〈5百円〉

(※印は追加寄附の篤志者、寄附金額は累計額)

## シリーズ まもる②

### 文化財の防犯

京都府警察本部  
防犯課長 佐々木善市

いうまでもなく、文化財は我国の歴史、文化の理解に欠くことのできないものであり、かつ、将来の文化の正しい発展の基礎となるもので国民的財産であり、これを犯罪事故や災害で滅失、き損することは大きい国民的損失です。

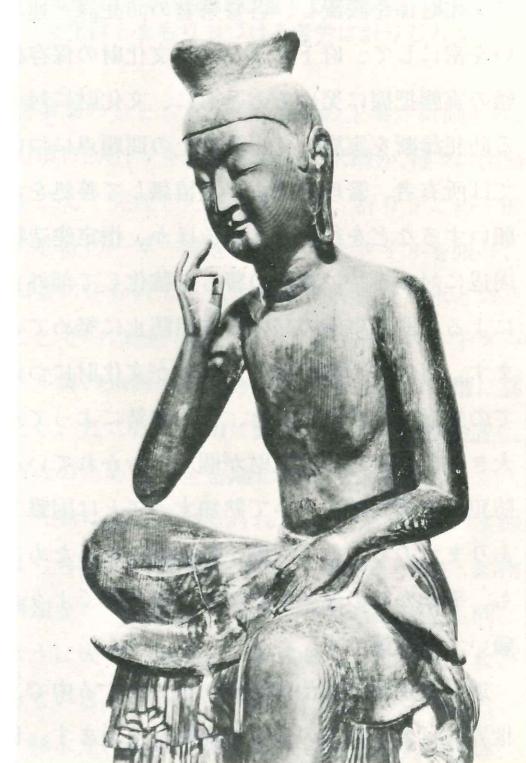
現代に生きるわれわれは、指定、未指定のいずれを問わず保護に価するすぐれた文化財を後世にも伝え、文化の創造に役立てることは重要な義務で、殊に警察は個人の財産の保護、犯罪の予防等を目的としており、国民的財産である文化財の保護について積極的に努力することは当然の責務であると考えています。

洛西の名刹、広隆寺に伝来の国宝第1号の弥勒菩薩像は、日本最古の仏像であって、京都最古の法灯を継ぐ寺院そのものの由来と共に特に比類のない貴重な文化財で、その瞑想の姿は、今の時代の人の心をも原点にひき戻してくれる生命を持つ魅力溢れる仏様であります。ことあろうに、昭和35年の夏に、寺院へ観光に来た若者がいたずらして、頬に寄せていられる右手の薬指を折損させました。若者は一旦は逃げましたが、さすがに重大性に気付き、名乗り出ました。警察は重大事件として大きい捜査体制をとり、その日のうちに指の破片を発見し無事解決されました。

この若者は、もともと仏像をこわす意思など毛頭なく、むしろその美しさ、神秘性の中に人間的親しみすら感じさせるこのみほとけにひかれ、衝動的に行なったいたずらが、予期せぬ結

果を招いたというのが実情でありましたが、センセーショナルなできごととして当時のマスコミも大きく報じ、社会的反響も著しかった事件であります。

我国には他に例がない程、すぐれた文化財が多数保存され、特に京都は日本文化の中核であった土地柄だけに数多く所在しています。しかし、これは偶然のたまものでなく、われわれの祖先が必死の思いで守り通し、うけ継いで来たもので、そこには文化財だからという意識よりもむしろ自分の生命よりも大切なものとして、守りとおして来たものであります。くり返される災害や、戦乱の中、血のにじむ努力がなされたことは、歴史を振り返ってみても容易に想



国宝 弥勒菩薩半跏思惟像（広隆寺）

像されるところであります。

このような苦難な時代に比較すれば、戦後の日本は、第一に平和であり、国自体も文化国家を国是とし、国民の文化財に対する理解、認識も高まっており、文化財の保存について容易な時代でなければならないのですが、実際には毎年のように文化財にかかわる事件、事故のひん発が証明するように、文化財の保存はいつの時代でも積極的にこれを護る意思と対策が必要で、いさかの油断も許されないことを自覚することが肝要です。

京都府警察では、昭和46年に、本部防犯課内に文化財係を設置し、各警察署の防犯課と連けて密にして、府下に所在する文化財の保存状態の実態把握に努めるとともに、文化財に対する防犯診断を実施して、防犯上の問題点については所有者、管理者の方々と協議して善処をお願いするなどを行なっているほか、指定建造物周辺に対する特に夜間の警らを強化して部外者による不測の事態の発生の未然防止に努めています。何分にも警察官のすべてが文化財についての知識はもち論のこと、社会情勢によつても大きく左右される文化財が個々におかれている防犯上の諸問題について熟知することは困難でありますので、その活動を効果的にするためにも、平素からの連絡を密にしていただくようお願いする次第です。

近年諸外国では治安問題が重大化する中で、世界は日本の治安のよさに注目しています。日本人が日本に住んでいての治安に対する実感は個人差もあり、また、日本でも最近は從来に見



文化財を保護するためには積極的な対策が必要である。前面に防犯ガラスをめぐらし文化財に直接手をふれられない様に管理している某寺院。

られなかつた悪質な犯罪が増加しているのも事実ではありますが、例えは米国と比較しても殺人、窃盗は五分の一、強盗は百分の一といった状況で、日本は諸外国に比し犯罪が少ないことは確かです。私はその原因の一つで、しかも大きな要素は、日本にはすぐれた文化があって、これが永く保存され、伝承されてきたことが犯罪の抑止に大きく作用していると思っています。

殺伐たる犯罪は人間性の喪失、つまり心の荒廃がもたらすものでありますので、今日の社会生活の中で、文化財が大きくかかわりを持つてとくに心の支え、豊かな人間性、伝統的な活力といった精神的なものへの作用が、間接的に犯罪抑止の機能としても現れているとみることは極めて納得のできるもので、国民の幸福につながる治安の面にまで好ましい効果を産み出す文化財を本当に大切にしたいものです。

## 古い寺に住んで(4)

鞍馬寺貫主 信楽香仁

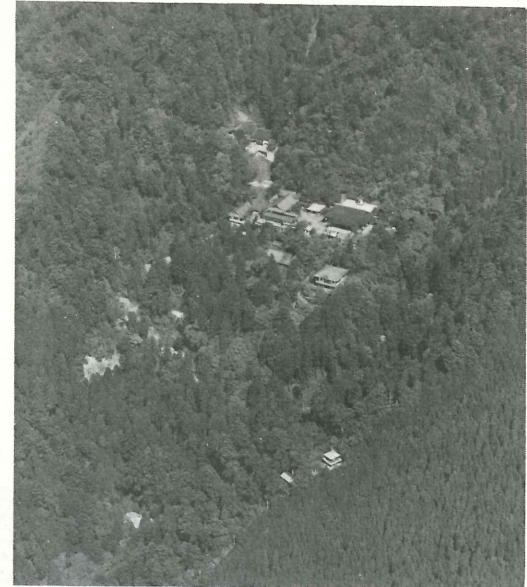
鞍馬天狗や牛若丸で知られている鞍馬山は、開創以来1200有余年になる。その間、数度におよぶ火災のために失ったものもあるとはいえ、人々の信仰の結晶である数々の宝物が、大切にうけつがれてきている。

焼亡のつど山容の甦るありさまは、地中にしっかりと根を張って、冷たい冬を耐え春に再び芽ぶく草木のように思える。これは、本尊尊天への深い信仰に根ざす故であり、それならばこそ、たびかさなる焼亡の後にも甦り、美しい文化の華を咲かせてきたのである。それはあたかも大生命体の深い呼吸のようであり、鞍馬山が生きていることを感じさせるのである。

私が、鞍馬寺に入山してから約40年になる。先代香雲管長のもとで修行している間に、ひとつの大試練に遭遇した。終戦の年、昭和20年4月の火災である。消火栓などの設備を持ちながら、その嚴冬に凍結して破損された揚水ポンプは、戦時中で修理の手だてもなく、消防の設備があつても水がないという皮肉な事態にあった。そして、遂に主要な建物をほとんど失つたのである。しかし、宝物の大部分は地下室に移してあつたため難をまぬがれた。このことは、せめてもの幸いであった。

天からいただく水のほかには頼ることのないこの山では、尊い水をいかにしてより多く保有するかを考えねばならない。まことに「生命の水」であり、「一滴の水も天地の恵み」であり水の大切さが身にしみこんでいる。

そのため、昭和49年に迎えた開創1200年の記



標高570mの山麓に位置する鞍馬寺。貴重な文化財をまもりつづける苦労は計りしれない。

念事業のひとつに、水槽設置の工事が計画され、山頂に270トンを容れる埋没式水槽が、種々の困難をこえて完成した。内壁には、祈りをこめて般若心経の一字一字を焼きつけたタイルを張り、山靈に守られて、八つの功德を秘めた水ということで「八功德水」と名づけられた。約6千メートル奥の水源から導き入れた水をこの水槽に満たし、ここから全山に配管して消火栓を設置し、防火のために万全を期したのである。

人間によってつくられた文化財としての宝物はもちろん、鞍馬山の珍しい動物・植物・鉱物・菌類など大自然からさずけられた宝物をも同じように大切に保存し、育成しつづけたいとねがっている。

杉木立の参道を歩きながら永い歴史を想い、人の命の短かさを思い、宝物を守りついでゆく重責をしみじみと感じるのである。

## 「文化財紹介」

# 二条陣屋

二条陣屋  
代表者 小川平太郎

重要文化財 小川家住宅は、江戸時代寛文年間（約310年前）の創建と伝えられる京都の代表的な町家（住宅建築）です。昭和19年9月に旧国宝に指定されたもので、その際、通称名を二条陣屋と名付けたものです。

建物は、木造二階建（一部三階建）で、幾棟も連続して建てられ、延688m<sup>2</sup>の数寄屋式住宅となり大小25室が設けられています。

その特徴は先づ、「住宅建築として建築技巧の優れている点では他に比類がないと思う」

（当時の文部省技官 大岡実氏）といわれています。メーンの大広間は書院造で、桐柾板の格子天井、付



一二条陣屋

天井の上に武者溜を隠す大名の居室

書院と違棚及び床の間は紅葉の一枚板で統一され、柱は杉の四方柾、釘隠は九谷焼、障子の腰絵には江戸時代の画匠の作品が残されています。大広間の「控の間」は本格的な敷舞台（能の間）となっています。その他「春日の間」「皆如庵」等いくつもの茶室や「大名湯殿」と称する当時の浴室があるのも珍しいものです。

次にあげられるのは、防火建築としての特徴です。外壁はすべて土蔵造り（漆くい壁）とし、窓には入念に土戸が設けてあります。庭に面した書院や茶室は漆喰壁にはできませんので、屋根裏に「濡れむしろ」を掛ける金具を設けて飛

火を防ぐ工夫をしたり、建物の周辺に12の井戸と5つの泉水をめぐらして防火用水とするなど、当時として考え得るすべての防火対策をしています。これによって天明の大火（約200年前）にも焼け残ったわけです。

もう一つの特徴は、陣屋式建築になっていることです。創建当時の屋号を万屋（よろずや）平右衛門と称して米両替を業とし、禁裏、二条城への出入りを許され、諸大名の御用達を受けていたのですが、西国大名上洛の際、陣屋として利用されたと伝えられています。従つて、大名逗留中の安全を守るために様々な工夫があります。例えれば、忍びよけとなる「鳴り板の廊下」、どの部屋からも二方向へ出られるよう「二重廊下」の配置、屋根裏（といっても実

は立派な二階ですが）に配置された隠れ部屋とそれに通じる抜穴、あるいは隠し階段。また大名の泊まる大広間には、格子天井の中央部（天井裏）に武者隠しがあり、すべての障子、襖に掛け金の装置がある等、極めて用意周到、その内部構造は複雑多岐に亘っていますが、それらが建物全体の優美さを少しも損わず調和しているところに、江戸時代の高い建築レベルを見ることができます。

一見学方法一 往復はがき又は電話で予約  
〒604 京都市中京区大宮通御池下ル三条大宮町  
二条陣屋  
(電話) 075-841-0972

## 会員だより

# 隨 想



大松株式会社会長  
当財団監事

小澤 悅治

この程、日本最古の三門といわれる東福寺三門の解体修理がみごとに完成。本年10月一般に公開される由であるが、もとの木材と補強された新しい木材とのつぎはぎ模様が修復にあたっての苦心のあとを物語っている。応永年間の造営といわれ実に600年の歳月を経た貴重な国宝建造物である。

また、石川五右衛門の伝説が伝えられる南禅寺の三門も目下、解体修理中で57年秋には完成の由、これは、寛永5年藤堂高虎が大阪夏の陣の戦没者供養の為、寄進したものといわれ350年を経た重要文化財のことである。

比叡山では、延暦寺の法華総持院東塔が、鎌倉時代の古図そのままに再現され、信長の焼打ち以来400年ぶりに本年10月、落慶法要が営まれる由である。

このようにして、貴重な文化財の修復再建が相次いでいますが、世相の落ちつきと共にそうした機運が醸成されてきたことは誠によろこばしいことと思います。

京都の街とその周辺は、随所に数々の遺跡、庭園、建造物や物語りを秘めた歴史の宝庫であり、日本文化の原点であって、日本人なら誰でも一度は京都を訪れたいという強い憧れをもっているし、外国人でも日本を訪れたら限られた日程の中に京都観光が必ず組み込まれているというは、こうした数々の文化遺産の魅力に依るもので。

ところが、日本の歴史的建造物はすべて木造



—東福寺三門—  
創建以来、600年ぶりに解体修理され、8年9ヶ月の歳月をかけ昭和53年3月完成した。

でその独特的の構造と建築美は世界に類を見ないすばらしいものですが、何れも数百年の風雪に耐えてきた為に腐朽が甚だしいこと、思われるし、それに何といっても火災に弱いということは如何ともしがたい難点で、古くは宝永、天明の火災や応仁の乱など幾多の災害や戦火に遭いあたら灰燼に帰したものが多いくことは返すがえすも残念なことです。その中で、幸いにその難を免れて現代に遺されたものは、誠に貴重でありかけがえのない文化遺産であると思うのです。

然し、今後これを保護し維持してゆくことはなかなか容易なことではなく、個々の寺や神社の力の及ばない場合が多いことを思えばその修理再建が国や府、市、そして民間の浄財によって地道に続けられることを希うものです。

私共、京都に住まいする者は、千年の都、世界の京都を誇りとし、文化観光資源の護持に深い関心を持つと共に、何等かの形でそのお手伝いをするよう心掛けたいものだと思います。

## 会員だより

### 山鉾巡行

弁護士

杉 島 勇(京都市北区)

京都は、祭の都といわれるくらい祭や行事が多い。その代表ともいべきは、葵祭、祇園祭、時代祭である。しかし、スケールの大きさ、豪華さ、そして、その行事の大部分は、鉾町が主体となって、その伝統を守り続けて来た長い歴史等からも私は祇園祭を第一にあげるのである。

記録を繙けば祇園祭は、今からおよそ1,100年前の清和天皇時代、京洛に疫病が流行し、病人や死人が多数出たので、その病魔退散、悪疫を封ずるため始められたとある。

祇園祭は、7月1日から29日の奉告祭までの1ヶ月に及ぶのであるが、16日の宵山と17日の山鉾巡行は天下に広く知られている。

抑も山鉾は、鉾のある町衆の手によってつくられ、それぞれ独自の華麗さを持ち、守り続けてきたことは京都の誇る世界的文化財というも過言ではあるまい。

山鉾の豪華絢爛は、彫刻もさることながら私は、そのまわりを飾るゴブラン織や綴錦にあるものと思う。昔は、いずれの鉾にも稚児が乗ったらしいと記録にあ

るが、今は、長刀鉾のみで放下鉾などには人形の稚児を乗せているに過ぎない。

稚児は、祇園祭のスターで、長刀鉾は山鉾の先頭に立つ。(他の鉾は、くじ取式でその順番が決まる)そして、稚児は、鉾の上で舞うという晴々しい存在で、正五位十万石相当の位が与えられ、古式にのっとり女人禁制の男の手で、万事その世話をうけるのであるから、稚児本人はもとより稚児の家族は、大変な苦労であり経済的負担でもある。

前口上はそれ位にして、私は、久し振りで今年は、始めから終り迄ゆっくり山鉾の巡行を参観堪能出来たのは、京都市文化観光資源保護財団の招待で、同財団が設けた鉾巡行順路での最



都大路にくりひろげられる豪華絢爛な山鉾巡行

適の場所といえる御池通河原町角の樹陰の招待席である。

緑陰に 山鉾巡行 見て涼し

緑陰に 山鉾巡行 見るはよし

祇園祭の行事では、何んといつても山鉾の巡行がクライマックスであり、内外の観光客もその辺に关心と期待をもってはるばるやって来るのである。

巡行の出発は、午前9時すぎ長刀鉾を先頭に、所定の位置にある山鉾は、それぞれクジ順に従って、四条通りを東に河原町通を北進し御池通を経て新町通りを南下し、所定の位置に帰るのである。私ども観覧者は、待つこと少し10時40分過ぎ、アナウンスによって、間近くに来ていることを知らされた。見れば長刀鉾は、ようやくにして、河原町御池通角付近に鉾頭の飾を陽にきらめかしながら、音頭取が片手で力綱を持って身体を支え、片手に扇子をふって拍子をとりながら、鉾の進行を指揮する。そして鉾の上では、コンチキチンのなつかしい祇園囃子が賑やかである。

[註] 祇園囃子

祇園祭に鉾の上で囃されるのが祇園囃子で、所謂「コンチキチン」である。囃子の人数は、鉾によって多少異なるが、大鼓2人、笛方8人、鉦方8人が大体の定員で、これに交代員、予備員等を加えて約40人から50人が乗り込んでいる。囃子の曲目は、古来30余種と伝えられている。今日では、20曲程度が用いられ巡行当日の囃子は、各鉾の自由選択であるが、四条通では「神楽」が囃されている。

鉦方は少年、笛方、大鼓方は中年以上の人々があたり、大体7月1日ごろから練習をは

じめるが、現在では、町内以外からも出てもらわないと人数がそろわないといわれている。

「京都市觀光協會篇、京都祇園祭中より引用」

註にあるように祇園囃子は、笛、大鼓、鉦だけのものではあるが、その音律には、はなやかな京情緒を感じ又、浴衣がけの囃子方姿なども京都人ならずともたまらない祇園祭的一面を象徴するようである。

鉾のうしろの見送りは、まさに絢爛豪華なもので国宝級の美術品もある。又、鉾の上正面にいる稚児は、宝冠ときらびやかな衣裳とを身につけるが、今年の稚児の衣裳は少なくとも百万円はかかったんだろうとのことである。今年の稚児は、テレビの錢形平次でお馴染の人気俳優大川橋蔵さんの二男坊ともあって、参観者の長刀鉾への关心は深かったし、きらびやかな稚児姿のそばに、浴衣がけの橋蔵さんが付き添っていたのも一層の興味をひき「橋蔵さん」という黄声やどよめきも上にいる橋蔵さんにとってはうれしいことだろう。

面白いのは、河原町通りを北向する鉾を御池通りへ進めるための西方向への転換である。西に向むす車輪の前に数十本の青竹を並べ、水をかけ、音頭頭の指揮よろしく、二、三度の節度をつけて、巧にその方向をかえ終れば参観者の拍手、そして鉾が参観者の前に来れば、一斉に又、拍手が起こる。

山鉾の 稚児に付き添ひ 父橋蔵

稚児のれる 長刀鉾に 橋蔵も

稚児のそば 浴衣着のまま橋蔵も

稚児のそば 大川橋蔵 浴衣着で

人騒ぐ 稚児に介添う 父橋蔵

正五位の 稚児にかしづく 父橋蔵

次々と、白衣やその他の色の半纏を身につけ西に向って進むそれら若衆は、殆ど学生のアルバイトらしい。中に一人の外人青年のいたのは奇異であった。彼は、留学生のアルバイトか或は、自ら的好奇心からかって出たのか、いずれにしても山鉾巡行で、今迄見られなかった一点景のそれとして特筆に値するものと思うのである。

参観者は、鉾が自分らの前に来たら、まなこを光らして、その華麗豪華な鉾に感嘆し、魅せられたように進む鉾の後をまなこは追うのである。

山鉾や 若衆にまぢる 異人あり  
鉾はゆく 万余のまなこ 後も追ふ  
長刀鉾にまつわる私共、法曹若葉句会とのかかわりについて一寸述べることにする。

法曹若葉句会を長く指導して頂いた、今は亡き関西俳壇に令名のあった村田橙重先生は、かつては、実業家でもあり又、長く祇園祭奉賛会長であった頃の句に

模して 長刀鉾の 人となり  
の名句を7、8年前、八坂神社近くの円山公園奉納庫近くに句碑を建立した。それとは別に私の友人であり、松風觀光株式会社の社長であり、創業から私も何かとかかわりを持った京都に於ける都新聞社末期の社長であった今も健在な松本元治さんが、焼失して永らく中絶していた中国河南省の菊水の水を飲んで、700才の長寿を得たという菊慈童の故事により、昔作られた菊水鉾を独力で昭和25年から私財を投じ、建立に着手。3年の歳月を要して之を完了された。胴掛



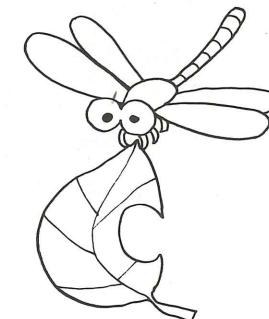
今年の祇園祭の話題となった長刀鉾稚児

けは、皆川月華作、見送りは山鹿清華作の見事なもので、他の鉾と引け目を感じさせないものを完成され昭和28年から巡行に加わりその光彩を放っているのは、松本さんの奇特の賜であり、現在、菊水鉾を含め30基の山鉾がその巡行に加わっているのである。

わが京都は、今次の大戦での空襲を免れたが、山鉾は悉皆、奉納防災に万全を期し、世界に誇るこの文化財を永遠に残さなければならぬと思うのである。

2時間30分に及んだ山鉾巡行が御池通りを過ぎると参観客は四散する。

鉾みんな 巡行すみて 散り散りに



## 財団設立10周年記念文化講演会

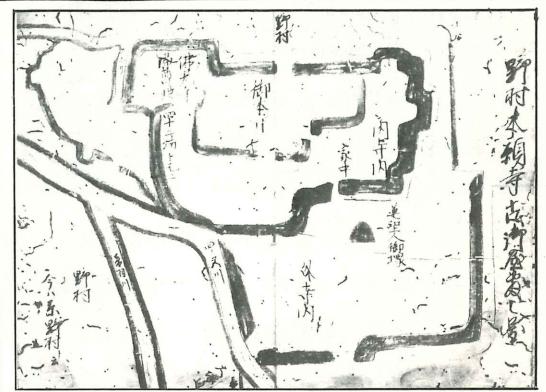
# 京都の文化的伝統とこれからの町づくり(2)

京都大学教授

西川 幸治

かくこうじょうじょうしき  
という第三郭から構成された環濠城塞都市が生まれたのである。

ここで人々は、宗教的な情熱にかられ宗教的な連帯感によって結ばれた生活の場を構築していたのである。そして、襲いくる外敵に対して



山科寺内町絵図

(野村本願寺古御敷之図・光照寺蔵)



往時をしのばせる山科寺内町の  
土居と濠跡（山科中央公園内）

## 町衆の町づくり

やがて、非常にめざましい町づくりの動きが現われてくるのが中世の末期である。

京都を中心に日本全土にわたって、戦国乱世の様相を示していく。町衆や郷民たちは、自分達の生活の場、自分達の町や村を自分達の手で自衛していかねばならないことになり、外に向っては自衛の姿勢をとり、内にあっては自治的な動きを示す町づくりや村づくりが現われてくるのである。

画期的なものとして、宇治の平等院でおこなわれた山城の国一揆があげられる。南山城の国人たちが平等院にあつまり、「自檢斷」を宣言し自分達で自治的に裁判権を行使し、警察権を行使し、三浦周一先生が「戦国時代の国民議会」とよばれたような動きを示したのである。

町衆の町づくりとして、現在の山科区に現われた寺内町に注目したい。

京都東山にあった大谷御坊を追われた蓮如が文明12年（1480）本願寺を再建したのが山科であり、ここに本願寺を中心とした寺内町が建設されたのである。現在、山科には寺内町の濠やお土居の跡が良く残っている。地図などでみるとかなり復原が可能である。

古図によると、第一郭 本願寺を中心にして、内寺内という第二郭があり、それも濠で囲まれその外側に町衆が住み一般の門徒が住む外寺内

抗争する姿勢を示したのです。注目すべきことは、本願寺のたつ山科寺内町、石山寺内町は、門徒たちにとって精神的な中心であり、そこへ参詣し、山科寺内町や石山寺内町の防衛に番衆として参加している。彼らは、山科に上洛するといい、そこに滞在することを在京するとよんでいる。門徒たちにとって本願寺法王国という精神世界の中心に首都として山科や石山を考えていたのである。

仏法がすべてを支配し、保護し処罰するという仏法領を理想の世界とかんがえその実現をめざして寺内町を構築したのである。

いっぽう、京都の町も応仁・文明の乱など大きな戦乱の中で、人々は自分達の町を守るために自分達で自衛していくようになる。

例えば、現在、左京区田中に田中神社という鎮守の森が残っているが、つい先年まで濠跡も良く残っていた「田中のまえ」である。こうした「町の構」「ちゃうのかこい」は、その地域に住んでいた庶民も貴族も一致協力して自分達の生活を守るために竹矢来を築き、濠をめぐらし土居を築いて防衛していたのである。

このような「ちゃうのかこい」「町の構」が京の各地に築かれてきたのである。京都の町衆を結びつけていたのが法華宗であった。

法華に帰依した町衆たちは当時のすべての権威、天皇あるいは伊勢神宮などの既存の秩序の上に、それをうわまわるかたちで「釈尊御領」という理想の世界を考え、その実現をねがいすべての人が法華に帰依するという動きを示し皆法華圏を形づくろうとしたのである。現在、鷹ヶ峰に残っている光悦村は、本阿弥光悦が近世の初頭に築いた芸術家村であるけれども芸術村

であるよりも前に京都の町衆が、最後の皆法華圏を築いたものでありこの芸術村は町衆による法華の世界であった。

このようななかたちで中世末に非常にはなばらしい動きを示したのが、町衆の町づくりとも呼ぶべき動きである。彼らは、かつての貴族文化と違った独自の文化を生みだし新しい生活文化を祇園祭の中にうたいあげている。衰退していく祇園祭の山鉾を復活させ、京都の町を復興するのはもはや貴族の手ではなく、町衆の手であるということを高らかにうたいあげたのが町衆のまつり祇園祭なのである。こういう独自の文化を生みだした成果の最後の花が鷹ヶ峰につくられた光悦村ではないかと思われる。

こうして、中世末期には新しい町衆の文化がうまれ、さまざまな町づくりの実験がすすめられていたことに注目したい。

しかしながら、中世末には町衆の町づくりだけではなく一つに戦国武将の町づくりがすすめられていた。戦国の武将たちは、町衆とは別の論理で世俗の権力を行使し、武力によって天下に号令し、武力によって天下を統一し安定した治安のいきとどいた町をつくろうという動きを示した。これが戦国武将の町づくりである。戦国武将たちは、領土を拡大しながら京都にさかのぼり天皇から征夷大將軍の称号を頂き、天下に対して号令することを夢みていたのである。そして、彼らはそういう京都を夢みて各地に小京都と呼ばれる京都を模倣した町をつくった。

たとえば、山口が小京都と言われるのは大内氏も京都にのぼって天下に号令したいというあこがれをもち、京都を夢みていたのではないかと思われる。

(以下、次回へ続く)

## 財団設立10周年記念文化講演会

### 古代政治と仏教 —1—

作家 松本清張

古代史といつても日本のことよりも日本に仏教が入ってくる。その仏教がどういう道筋で、また途中でどのように性格を変えて結局、日本に入ってきたか。その背景となる古代、中央アジア・中国それから朝鮮・日本を仏教を中心に述べてみたい。

私は、仏教はもちろん門外漢でよく知らないのだが、その仏教の門外漢が何故、仏教のことを述べるのだという疑問がおありになるかもわかりません。

しかし、俗に言うおかめ八目というか、返つてその当事者でない方が、案外実態が見えるのではないか、少なくとも見えるように私には思えるのでそれを述べたい。

仏教というと信仰ということがすぐに浮ぶが、仏教の初期の段階では、決して信仰だけではなく、時の支配者の政治的な道具に使われてきたということが今日の話のテーマです。

お釈迦様の仏教が、そのまま中国に入ってそして朝鮮を経て日本に入ってきたのではなく、インドで生まれた釈迦の仏教は、中央アジアで大きく変質し、性格を変えて中国に入り、日本に伝わってきたのです。

そのためには、中央アジアの情勢をひとおり述べなければなりません。この中央アジアというのは、ご承知の今のイラン・アフガニスタン・パキスタンそれにインドの北部を含めていうのですが、この地域は、昔から東西南北の



講演中の松本清張氏

勢力の紛争の土地であります。文明の十字路であるだけにたえずその利益をねらって北からは遊牧民族が南へおりてくる。南からはインドの勢力が押し上げ、東からは中国の勢力がうかがい、西からはイランや遠くギリシアの勢力が伸びてくるといったぐあいでした。そして確固とした政権が、ときどきは出来るけれどもすぐに他の勢力によって崩れていく。

紀元前四世紀半にアレクサンダロス大王、マケドニアから出てたちまちのうちに小アジア、西アジアを席捲する。イランから中央アジアそしてインドの西北、ガンジス川の上流あたりまで版図を広げた。

このアレクサンダロスのもたらした政策というものが、世に言う汎世界主義、ヘレニズムという。都市国家政策からメトロポリス政策に変わる。とにかくせまい都市どうしの垣根をとり

はらった広い門戸を開放するといった政策であります。

御承知のとおりそれまでは、都市国家でありますからそれぞれ狭いところで統治をやっていました。アレクサンドロスは、非常に大きな版図を広げた為に、言うなれば、占領地の民族解放、人間平等主義を唱えだした。

これは、政策上そう言ったのであってアレクサンドロスは民主主義者ではないのです。

アレクサンドロスは、占領地の統治のために、例えばイランに入るとイラン民族を懷柔すべく征服者であるマケドニア人つまりはギリシア人も被征服者のイラン人もまったく平等であるという立場をとった。例えば自分では、当時はアケメネス王朝の最後でありましたが、アケメネス王朝を倒してアレクサンドロスは、ペルシアの王になったわけですが、その王族の娘を自分の妃にしております。

のみならず、連れていった何千というマケドニアの将兵とペルシアの婦人と集団結婚をさせている。

ということでこれは、マケドニアから見るとイラン人は異民族でありその異民族を統治させる為にそういう「同化」政策をとったのです。

ヘレニズムというと東と西の接近だとかヨーロッパとアジアの密着であるとか、東西文化の交流であるなどというような事が考えられますが、それは結果とするところであります。

けれども、これはアレクサンドロスが発明した占領地の民族融和政策ではなく、その前に手本があります。それは、アケメネス王朝の初期の王にキュロス大王というのがおり、当時のペルシアを非常に大きな版図にした王ですが、そ

のキュロス大王が、西隣のバビロニアを征服した時にとった政策が、非常に寛大な統治だったので。それまでは、戦領軍は被戦領地になだれ込んであらゆる略奪、虐殺、暴行の限りをした。その為に土地の人民は占領軍あるいは新しい君主に決してなじまなかった。

キュロス大王は、そうではなくどしどし占領地の人民を解放し、例えはバビロニア（新バビロニア）に囚われの身であったイスラエル人を解放した。そして、イスラエル人に思うままに信教の自由を許し彼らの神殿を造らせるという極めて寛大な政策をとった。キュロス大王は、どこへ行っても解放の王様で、その軍隊は解放軍として民衆に歓迎されたわけです。それでうまくいった。これをアレクサンドロスがペルシアを占領してそのキュロスの方法を学んだのです。そのアレクサンドロスの政策は、更に東に進んでも中央アジアでも同じことをしました。

ある学者は、中国の絹をアレクサンドロスが直接に手に入れたい為にその国境まで追った。けれども、将兵が疲労したのでインダス河の上流あたりで引き返すわけですが、引き返したアレクサンドロスは、イランの首都であったバビロンに帰えり、おそらくマラリヤだと言われていますがそこで熱病にかかり壮年で死ぬ。そのアレクサンドロスが、中央アジアに軍隊を進軍させた時に、その土地土地にギリシアの植民地をつくったのです。いうなれば、マケドニア軍の兵站地がギリシアの植民地になった。植民地につくった理由は、なにしろ物資の豊富なところでシルクロードという名前は後でありますが、その頃からすでに文明の交易路であったわけで、そういう要所要所にギリシア人の植民地ができ

たわけです。医者もいるし職人もいるし、特に中継貿易に従う商人が多くかった。

アレクサンドロスの死後は、その武将の一人であったセレウコスが政権を分担し、西はシリア、東は中央アジアまで領土としておさめた。このセレウコスもアレクサンドロスと同じように異民族との血族結婚政策をとった。アレクサンドロスの真似をしたのですが、悲しいかなアレクサンドロスのように手腕がなくシリアのほうへ敗退してしまいます。

話が前後しますが、中国の西方に大月氏といふ名前の民族が砂漠地帯にいました。

ところが、一方、漢をしばしば悩ませた匈奴という民族があり、蒙古を中心に東西の草原地帯に一大勢力を張っていました。匈奴は、遊牧民族であり、恐らくトルコ系ではないかと言われている。この匈奴が、非常に強い。漢の高祖も一時は、危く匈奴の為に捕まりそうになつたくらいに強い。その匈奴に追われて大月氏は、

その自分の故郷のオルドスの砂漠地方を捨てて西の中央アジアのアム、シル両川の間に非常に土地豊かなところに移って、そこで国をたてるわけです。漢の武帝が匈奴に悩まされてそしてこれを敗ることが出来ないので大月氏國に張騫というものを使者に送って東西両方から匈奴を挾み撃ちにしようではないかということを申し入れたのは、そうした事情からです。ところが使者張騫は、途中匈奴に捕まって往復に15年かかったくらいですから間に合わないし、だいいち大月氏が漢のいうことを聞かなかつた。

しかし、漢の方では霍去病や衛青という名軍司令が出て、匈奴を遂に倒し、匈奴はその為に主力部隊が西の方へ走るという事態がおこる。それが四世紀のヨーロッパにおけるフン族の民族大移動のきっかけになると言われている。

そのような事情で、大月氏國という強い国が中央アジアの北の方にいたのです。

そういう中央アジアも中国も同じですが、い



北方の遊牧民族の侵入を防ぐために築かれた万里の長城

つも北の遊牧民族にやられてしまうのです。中国でも歴代この北方の遊牧民族の為にどれだけ苦しめられたかわからない。

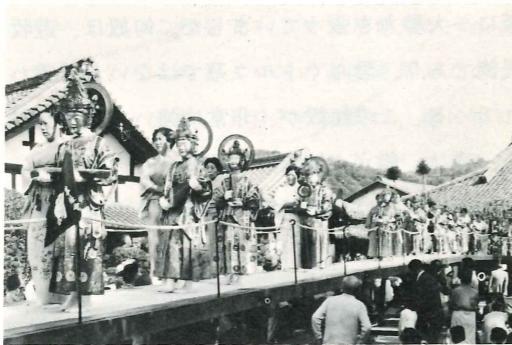
秦の始皇帝が、万里の長城を築いたのも、そして漢が匈奴の機嫌をとる為に公主といって王族の娘を匈奴の王様の妃にやったうえに年々莫大な錢帛を贈ったりするも北方民族が強いからです。北方民族というのは、土地は瘦せてそして冬は寒く、生活は苦しいし、気候にも恵まれない。そのようなところに育つ民族は、非常に身体が強くて日頃から鍛えられているので農耕社会の漢民族などはものの数ではないわけです。漢民族の方もお互いが戦争する時は、いつ

もこの北方民族を助っ人のように雇っているわけです。それは、漢でも後漢でもあるいは三国時代に入ても同じですが、もとはといえば助け人が主人の母屋を武力で奪いとったのです。そのように胡族といいますが、北方トルコ系の遊牧民族にはかなわないのです。

後漢が終わり、三国時代が終わると中国では五胡十六国という有名な胡族の国家が、中国の北半分に興ったり、廢れたり又興ったりという時代がおこります。

漢民族は、南へ追い出されてしまい中国の北半分は、胡人の国家になった。

(以下、次回へ続く)



二十五菩薩おねり供養法会  
京の伝統行事・芸能を日頃、忙しく見に行く機会の少ない方々は、ぜひご覧下さい。

- ◆主催 京都市  
財団法人京都市文化観光資源保護財団
- 後援 京都新聞社・KBS近畿放送
- ◆司会 露乃五郎（落語家）
- ◆構成・演出 権藤芳一（京都観世会事務局長）
- ◆出演 雅樂（平安雅樂会）  
蹴鞠（蹴鞠保存会）  
上棟祭（番匠保存会）  
二十五菩薩お練供養法会（即成院菩薩会）

## 保護財団の活動

### 第11回 郷土芸能の夕開催

#### —王朝文化と民俗芸能—

千年の都としての長い歴史と伝統をもつ京都の歴史的風土を舞台にくりひろげられてきた多くの郷土芸能の中から今回は、平安時代、宮中などを中心に盛んにおこなわれ今日に伝わる芸能とその頃の庶民の間でうまれ伝えられてきたといわれる民俗芸能を一堂に会し、京都の郷愁をかもしだす京のわらべうたをはじめて特に平安時代に起源をもつものをはじめて郷土芸能の夕を開催いたします。

◆とき 10月25日(土) 午後6時30分

◆ところ 京都会館第2ホール

◆料金 (文化財保護協力金)

前売券 900円(市内各プレイガイドで発売)

当日券 1,200円

団体券 (15人以上) 800円

やすらい踊（玄武やすらい踊保存会）

六斎念佛踊（千本六斎会）

京のわらべうた（あいりす児童合唱団）

※本催入場料を当財団会員1名につき2枚を限度に団体料金により優遇させていただきます。

については、郷土芸能の夕会

員割引券を切りとり当日、

入場券売場へご提出下さい。

お問い合わせは、当財団事務局へ。

郷土芸能の夕会  
員割引券  
￥800  
京都市  
観光資源保護財団

### —第23回役員会の報告—

55. 6. 18 於 京都都ホテル

昭和54年度事業報告並びに収支決算、役員の改選について審議をおこない原案のとおり決定した。

今回の役員改選は、任期満了にともなうもので、財団組織の強化をはかることから一部団体等の代表者の交替を除いて佐伯理事長をはじめ全役員の重任を決定した。

なお、今回評議員に新しく日本画家の山口華楊氏が選任された。

団体等の代表者の異動にともなう新役員は次のとおり（敬称略・順不同）

名誉顧問 稲山嘉寛（社団法人経済団体連合会会長）

評議員 石原俊（社団法人日本自動車工業会会长）

〃 小柳美代子（京都市地域婦人会連絡協議会常任委員）

## 第27回 文化財特別参観のご案内

### —大徳寺塔頭“三玄院”と“興臨院”—

今回は、数ある大徳寺の塔頭寺院の中から、日頃一般に公開していない三玄院と興臨院の文化財を見学いたします。

◇参観日時 昭和55年11月29日(土)

午後2時(参観時間約2時間)

◇対象者 財団募金協力者(会員)とその家族

◇申込方法 往復はがき1人1枚に住所・氏名・年令を記入

◇申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町  
13 京都会館内

京都市文化観光資源保護財団

◇参加費不用

※お問い合わせは財団事務局まで。なお、参加ご希望者が多い場合、制限することがあります。

## 未公開寺院特別拝観

11月1日～8日 午前9時～午後4時

対象社寺：真珠庵・玉林院・黄梅院・

法然院・靈鑑寺・天授庵・

円徳院・成就院・妙法院・

法觀寺・光雲寺

(7日 玉林院、8日 法然院休み)

拝観料 1カ寺 500円

主催 京都古文化保存協会

朱雀大路

## 昭和56年版 文化財カレンダー発行

会員の皆様にご好評をいただいている京都の貴重な文化財をとりあげた文化財カレンダーを今回は、昭和56年版として国宝・重文に指定されている肖像画の代表的なものをとりあげ「京の肖像画」と題し作成いたしました。

### テーマ “京の肖像画”

掲載写真 国宝 源 賴 朝 像

〃 花園 天皇 像

〃 明惠 上人 像

重文 足利 義満 像

〃 豊臣 秀吉 像

〃 聖徳 太子 像

規 格 B3・7枚もの（表紙含む）

6色刷カラー

カレンダー配布ご希望の方は、次の要領によりお申し込み下さい。

申込方法 往復はがきに文化財カレンダー申込み及び住所・氏名（法人の場合は、法人名と代表者名）を記入

申込期間 11月20日まで

申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町  
京都会館内

京都市文化観光資源保護財団宛

申込み先着100名の方に無料（ただし郵送料は必要）で領布いたします。申込者については、返信はがきにより追って通知します。

なお、申込み資格は、当財団会員に限ります。  
(申し込み部数は、1人につき1部とします)

## 編集後記

重なる基金のご協力をいただく中で、このたび「祇園祭や大文字の送り火をずっと続けて下さい。」と京都府長岡京市に住む小学5年生の黒崎永子さんから心温まる寄附金が寄せられました。

祇園祭や大文字五山送り火などの伝統行事の存続が危ぶまれていることを聞き、小さな胸をいためた永子さんが、一生懸命貯めたお小遣いです。役立てて下さいと船橋京都市長へ届けられたものです。

このような、善意の一つ一つが今後さらに市民をはじめ国民の方々のご理解とご協力をいたくための原動力になるものと信じます。事務局では、このあたたかい善意にこたえるためにもなお一層の努力を重ねてまいりたいと存じますが、会員の皆様方におかれましてもこの国民運動としての善意の輪がさらに広まるよう広く呼びかけていただきますようお願いいたします。

### — 表紙写真解説 —

#### ■靈鑑寺書院障壁画

当寺は、承応2年（1653）後水尾天皇が皇后、宗澄尼を開基として建立された門跡尼院で当障壁画は、書院のもので中段の間は狩野元信、下段の間は狩野永徳の作品と伝えられる。

破損著しいため昭和46年度、修理がおこなわれ当財団補助対象になった。